

「じー。」

私は小さい頃、百円ショップに行くといつも百円のとなりにつく八円とにらめっこをしていました。百円玉とおかしをもってレジまで走っていくと、

「それじゃ買えないよ。」

と、母から一円玉を三枚、五円玉を一枚渡されます。私は、どの商品にもついてくるその魔法の八円が嫌いでした。

ある時、レジに表示される八円とにらめっこをしていると、母が私に、

「どうしたの？そんな怖い顔して。」と、

「なんで八円がくっつくの？」

と聞くと母はニコニコしながら

「あれは税金って言うんだよ。」

と教えてくれました。私が聞いたこともない難しい言葉にきよとんとしていて、と、

「みんなが、幸せに暮らすためのお金。学校を建てたり、公園つくったりするお金。そのうちの消費税っていう税金なんだよ。」

と母がいてねいに教えてくれました。ですが、その頃の私にはほとんど理解できていませんでした。ただ分かったことは、このお金がなければみんなの笑顔が見られないということ、自分の大好きなブランコやすべり台で遊べないということ。幼い私でもみんなのためのすごく大切なお金なんだと感じました。

中学生になってそんなことも忘れていた時、コロナウイルスという恐ろしいものが日本にやってきました。テレビでは聞きたくもないニュースばかり…。特に私の心に残っているのは飲食店の閉店の日に密着した映像です。そこには、コロナによって収入が激減し、閉店するしかなくなってしまった店が映っていました。助けたくても、助けられない、そんな現実に胸が締めつけられる思いでした。ですが、ある時に給付金が支給されるというニュースが流れてきました。そしてそれのおかげで閉店せずに済んだ、という店の映像が流れてきました。良かった。行ったことない店でもそんな気持ちでいっぱいでした。そして「給付金って何のお金なんだろう…。」と疑問を持ちました。調べてみると国のお金、つまり税金であることが分かりました。そして、前に母が言った言葉を思い出しました。

「みんなが、幸せに暮らすためのお金。」

私はその時やっと理解することができました。

あの時の八円が誰かを幸せにするための助けになるお金だったということ。

消費税が十パーセントになった今、私は誰かの助けになれますようにと思いを込めて十円玉を出しています。